

日本緩和医療薬学会 緩和薬物療法認定薬剤師

枝廣 茂樹 先生

勤務先：金沢赤十字病院薬剤部

出身地：大阪府

資格取得年：2011年4月

#### Q1 資格取得のきっかけは何でしたか？

緩和ケアに興味を持ったのは、10年以上前のことですが、激しくがん性疼痛を訴える父親に対して薬剤師である私に緩和の知識がなく、何もしてあげられなかったことが取得の動機でした。その後、病院勤務にて緩和ケア病棟はないものの、次第に増えてくる緩和ケアの患者に対して何か手助けにできないかと思い資格取得に踏み切りました。

#### Q2 資格取得の最大の難所はどこでしたか？

資格取得の際に困ったことは、単位認定の対象となる研修会が県外に多く、必要な単位を取得するため、学会や研修会など出稼ぎに行ったことですね。また、日常業務に追われて試験勉強の時間がとれなかったため、部員の協力も得なければならないことでした。

#### Q3 この資格のやりがいは何ですか？

資格取得の有無に関わらず、緩和ケアは大いにやりがいのある分野だと思います。なぜなら、疼痛コントロールや症状緩和のため、医師に提案し反映されると割と早くその効果が確認でき、患者の訴え、表情などに出るためです。症状の改善があり、患者、スタッフから感謝の言葉が得られたら、提案した側としても嬉しいことですから……。資格取得者であれば、スタッフに対して説得力が高くチーム医療を行う上で、信頼関係の構築にもよいと思われれます。

#### Q4 普段のお仕事でこの資格はどのように活用されていますか？

症状コントロールで難渋している患者に対して、薬物療法を主としたトータルな薬学的管理に基づいた服薬指導、助言、および提案等を行い、患者または、家族の満足度向上を図っています。また、穏やかな最期を迎えられるように支援することも仕事のひとつと考えています。さらに、地域医療推進のため、薬薬連携において薬局薬剤師等に対して緩和薬物療法における教育支援にも貢献しています。

#### Q5 資格を取得して良かったな、と感じる事柄はありましたか？

良かった、嬉しかったと思えるのは、自らが薬学的管理を行い介入した患者が、元気になっていく経過や表情をみることです。あとは、患者やその家族から感謝のお言葉を頂くことですね。しかしながら、終末期の患者が多いため、本人から感想が聞けないことも少

なくありません。スタッフや家族から最期は「苦痛表情なく逝かれたよ」と言われたときも満足感や達成感があります。専門性が高いとスタッフや家族からの信頼も厚くなる気がします。

Q6 医師や看護師などとのディスカッションで気をつけていることはありますか？

チーム医療の一員として参画する以上、患者のこれまでの経過、バイタル、画像所見、検査データ、処方歴などを把握しておくことは当然であり、可能であれば患者自身から症状、服薬状況などを確認してからディスカッションすることを心がけています。

Q7 患者さんに接する際に気をつけていることはありますか？

症状コントロールなどで薬学的介入を行った患者については、効果、症状、副作用を確認するため、随時介入を心がけています。薬剤管理指導料加算の可否に関わらず、介入することが患者または家族の信頼を得るポイントでもあります。また、コミュニケーションが図れる患者であれば問題ありませんが、寝たきりの方も少なくありませんので、表情やちょっとした言動に注目するようにしています。

Q8 その他、苦心したり気を遣うことはどのようなことでしょうか？

緩和領域は症状緩和や副作用回避のため、様々な適応外使用を検討しなければなりません。薬物動態、副作用などを考慮し、検討した薬剤が反映され、投与された結果、症状の改善がみられないことが最も悩まされます。何もしてあげられないのか・・・と。また、内服が困難となった場合、注射剤や外用薬に変更を検討しますが、この際に選択肢が狭まるため困ることが多々あります。しかし、このような困難に遭遇したケースが認定薬剤師の力を発揮するポイントなのではないかと思っています。

Q9 この資格を目指している後進へ何かアドバイスを！

これからの薬剤師は幅広い一般的基礎知識を把握したうえで、何らかの専門性を身に付けていく時代となりました。緩和ケアの認定を目指すのであれば、身に着けた知識を現場で生かせる認定薬剤師になって頂きたいと思います。決して資格取得がゴールではなく、その資格を患者にどのように日常業務で生かすかが、有資格者の役割であると思います。石川県の緩和薬物療法認定薬剤師は、現在 7 名であり、緩和に興味のある仲間も少しずつ増えてきています。是非、認定を取って地域の緩和ケア推進に貢献して頂きたいと思います。

Q10 この資格の取得要件を教えてください。

この資格の取得要件は結構厳しく、単位取得、症例提示が大変でした。筆記試験は、臨床的知識は勿論のこと、薬物動態など基礎的な幅広い知識も求められます。詳細は学会ホ

ホームページをご覧ください。<http://jpps.umin.jp/>

- ① 薬剤師としての実務歴を5年以上有する日本緩和医療薬学会の会員。
- ② 薬剤師認定制度認証機構により認証された認定薬剤師、日本病院薬剤師会生涯研修履修認定薬剤師、あるいは日本医療薬学会認定薬剤師のいずれか。
- ③ 緩和ケアチームまたは緩和ケア病棟を有している病院、診療所等のいずれかの施設において緩和ケアに3年以上従事している薬剤師。
- ④ 認定対象となる講習等を所定の単位（計100単位、毎年20単位）以上履修。がん疼痛緩和と医療用麻薬の適正使用推進のための講習会に参加。
- ⑤ 緩和ケア領域に関する学会発表を2回以上。
- ⑥ 病院等に勤務する薬剤師は緩和ケア領域薬剤管理指導の実績について30症例以上提示。
- ⑦ 所属長の推薦。
- ⑧ 上記を満たした者は認定試験を受験。